

# 政経研究所共同研究資料

## 一・石垣市役所での聞き取り調査

会場…石垣市役所会議室

日時…二〇一四年一月二四日午後四時―五時三〇分

参加者…中山義隆(石垣市長)、嘉数博仁(企画部観光スポーツ局長)、こしざと俊太郎(同主査)

日本大学 山田光矢、佐渡友哲、孔 義植

## 石垣市の概況

石垣市…琉球弧及び日本列島の最南西端に位置し、一九の島々から成る八重山群島の拠点

政経研究所共同研究資料

石垣島と無人の尖閣諸島で構成

八重山圏域(石垣市・竹富町・与那国町)の全面積(五九一・八km<sup>2</sup>)の約三九%

沖縄県全面積(二、二七一・三km<sup>2</sup>)の一〇%

市制施行…昭和三二年(一九四七)年七月一〇日

非核平和都市宣言

昭和五九年(一九八四年)三月二九日制定

観光立市宣言 平成九年(一九九七年)十一月一日宣言

平和港湾宣言 平成一一年(一九九九年)三月二六日議決

石垣市核廃絶平和都市宣言

平成二三年(二〇一一年)十二月二七日議決

人口…四八、八一〇人(男…二四、四二五人 女…二四、三八

五人 世帯数二二、四七四戸・平成二五年二月末現在)

産業別人口(平成二二年)

第一次産業 一、九五七人(八・七%)

第二次産業 三、一九〇人(二七・三%)

第三次産業 一四、八九〇人(六六・八%)

分類不能 二、二三八人(一〇・〇%)

面積…二二九・〇〇km<sup>2</sup> 海岸線…延長一八四km

主な産業…農業、水産業、畜産業、観光業

主な特産品…石垣牛、バイナップル、マンゴー、かまぼこその他

(市役所職員はマグロとバイナップルを強調)

食糧自給率が低い ↓ 平地が多いので可能性は高い…家庭

菜園が多い

∴ 輸入あるいは移入食料が多い(牛・豚)

漁港 第一種…登野城漁港、伊野田漁港、船越漁港

第二種…石垣漁港

↓ 沿岸漁業の基地として順次その整備を進めている

尖閣問題…尖閣諸島周辺での漁業⇨経費の関係で一週間程度

の滞在が必要

∴ 沿岸漁業者は近寄らない

荒海 ↓ 船溜り、灯台、通信施設などが必要

海上保安庁…大型巡視船一四艘配備決定⇨第一管区

海上保安本部・石垣海上保安部

空港 新石垣空港…第三種空港滑走路…二、〇〇〇m×四五m)

平成二五年(二〇一三年)三月七日開港

国際ターミナル併設 ↓ 日本の最西端 ↓ 台湾に近い

↓ 定期便はない

ピーク時…一日九二便の離発着 ↓ 国際空港化するには

空港の拡張が必要…二、五〇〇m空港

石垣空港 ⇨ 台湾花蓮…夏季のみ・復興航空 (Trans Asia

Airways) 定期チャーター便運航

第一海上保安本部・石垣航空基地併用

石垣市役所…北緯二四度二〇分、東経一二四度九分

石垣島からの距離

宮古島(宮古島市)まで…一三三km…第一海上保安本部

石垣海上保安部・宮会場都保安署

沖繩本島(那覇市)まで…四一km

鹿児島まで…一、〇一九km

東京まで…一、九五二km

台湾(台北)まで…二七七km…沖縄本島より台湾のほうが近い

市町村との交友関係

親善都市…岡崎市(愛知県) 昭和四四年(一九六九年)二月

友好都市…稚内市(北海道) 昭和六二年(一九八七年)九月

北上市(岩手県) 平成二六年(二〇一四年)一月

二六日

姉妹都市…蘇澳鎮(臺灣) 平成七年(一九九五年)九月

台湾(臺灣)…宜蘭縣…宜蘭市…蘇澳鎮

漁業を中心に交流

一九八二年…八重山青年会議所と蘇澳港國際青

年商會姉妹締結

カウアイ郡(米国ハワイ州)

平成一一年(一九九九年)一〇月

ゆかりのまち…上板町(徳島県)

平成二二年(二〇〇〇年)一〇月

姉妹港…花蓮港(台湾)

平成一三年(二〇〇一年)一〇月

石垣市の人口動向

近年増加傾向を示している ↓ 毎年一〇〇人程度増加

政経研究所共同研究資料

特徴…四七都道府県の出身者が在住

三六カ国の人々が住んでいる

台湾との交流…漁業を中心とした交流

台湾(臺灣)…宜蘭縣…宜蘭市…蘇澳鎮

約二、〇〇〇人が帰化

台湾の影響…水牛を使う農業など

人口増の要因の例

トライアスロンのワールドカップ

母国の選手の応援やサポートのために来島し定住

C I R (国際交流員) による来島者

観光客の定住化…毎年約六〇万人の観光客が来島

島への愛着が生まれて定住する人々がいる

↓ 四七都道府県の出身者が在住する一因

石垣島(八重山地域)の特区構想 ↓ 国の許可が下りず頓挫

石垣の魚の貿易

(すじあら…アアラ・ミーバイ…やいととはた…養殖)

石垣島の観光産業の特色

売り物…日本であって日本でない

日本の最西端(台湾に近い)、

↓ 八重山地域の独自性

自然・ダイビング・シュノーケリング・つり等

観光収入…約六〇〇億

市の財政…三〇〇億

↓ 観光産業への依存度が高い

名産品の需要拡大策の実施 ↓ ISHIGAKI × DESIGN :

名産品のパッケージ再生

ネットによる新しいデザインを募集

↓ 名産品一〇点のリニューアル

内一点…台湾からの応募作品

↓ ネットが海外への情報発信手段となつてい

ることの証

自然…暖かい

農協観光…東北からの客(冬期)

岩手県や山形県米沢市との交流

岩手県…「かけはし交流」

一九九三(平成五)年の大冷害以降

石垣市…岩手県の種籾を肥育⇨交流開始

現在も継続

二〇一四(平成二六)年一月二六日

友好都市提携締結

…平成二三年まで

二月・三月の観光客⇨七月・八月と肩を並べていた

台湾からの観光客…多い⇨交流を通じた拡充が必要

自転車、トライアスロン、つりを中心に来島

国際ヨットレース⇨日本艇一〇、台湾艇四程が参加

韓国からの観光客…少ない⇨増加策が必要

島を知らせる工夫が必要

二〇〇八年…イ・ジョンソプ監督「快刀ホン・ギルドン」

撮影

監督は石垣島での撮影が多い

二〇一三年「プライベート・アイランド」(韓国TVドラマ)

マ)一〇〇%撮影

韓国人はゴルフをやる

きちんとしたゴルフ場の建設が必要

多国籍の外国人観光客の来島…クルーズ船(マレーシア船籍)

⇨平成二五年度で八万七千人

台湾基隆港からスーパースターエリア

石垣港に寄港 ↓ 週二便程度

半日程度の上陸…基隆港 ↓ 石垣港 ↓ 那覇港

那覇港への途中の一時上陸程度

日本人観光客の誘致…スポーツを通じて女性客を増やす

実施している項目

石垣マラソン…一月に実施（本年は一月二六日）

千葉ロッテ・マリリンズのキャンプを誘致…二月

日本で最初のオープン戦を開催…ロッテ vs オリックス

ツンダミア일랜드フェスティバル

(TsunDAMI ISLAND FESTIVAL)

三月八日…石垣港新港地区特設会場

外国人観光客の誘致

健康アイランド

医療を通じた交流…八重山病院の建設（石垣空港跡地）

サイクリング…石垣島ライドや西表島ジャングルライド他

フリー Wi-Fi の提供

石垣市の台湾との交流

八重山商工高等学校…国立台北大学に六名が留学

台風と生態系の関係

地球温暖化(？)…台風の進路が変わってきている

政経研究所共同研究資料

台風の恵みが少なくなってきた。

台風…雨と塩が生態系を保持していた。

八重山…流罪の地⇨政治や芸能関係者が流罪となった

独自の文化を育んできた

台湾・中国との環境問題

中国の公害が風に乗って台湾に来る

中国と台湾の公害が一緒になって八重山に来る

⇩ 国際協調を通じた環境対策が必要

資料

<http://www.city.ishigakiokinawa.jp/home/kikakubu/ki-kaku/index.htm#p11>

石垣市ホームページ〈統計で見える石垣市の概況他〉

[www.city.ishigakiokinawa.jp/500000/500100/gaikyou.htm](http://www.city.ishigakiokinawa.jp/500000/500100/gaikyou.htm)

htm

[http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf\\_280/04\\_sppdf#search=CR](http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_280/04_sppdf#search=CR)

自治体の国際化と国際交流員の活用： CRAIR

自治体の国際化と国際交流員の活用： CRAIR

## 二、石垣島の台湾(臺灣)との関係を含む漁業と観光に 関する聞き取り調査報告

会 場…海業(うみわざ) 観光

日 時…二〇一四年一月二五日 一〇…〇〇—一二…〇〇

被聴取者…沖縄県漁業士会長 比嘉康雅様

参加者…山田光矢 佐渡友哲 孔 義植

石垣市と台湾(臺灣)・蘇澳鎮・姉妹都市交流

人的交流…盛ん ⇕ 経済交流…少ない

水産物交流…マグロ漁

台湾との交流…話はたくさんある ↓ 実現したものは少ない

∴ 交流から生じる波及効果…実感はない

台湾からのクルーズ船の来航…通過型

店によって対応や結果が異なる

日本人の行動…離島には行かない…領土問題・対外批判

離島…外国人観光客に依存 ↓ 批判…離島の経済に悪影響

石垣と台湾の漁船同士のつながり

沖縄の本土復帰前まで…友好的

共同で仕事をしてきた ↓ 混活化：マグロ船

石垣漁民…小型船によるローカルな漁業

台湾…漁法の近代化(大型化)

面で操業(中国船も含む)

近海で操業…底物を狙う…定置網や釣り

トロール船…網…一網打尽 ⇕ 資源保護も重視

グルクン漁…中止…追込み漁…潜水病の危険

台湾との漁業協定…八月まで

⇕ 協議…新協定 ⇕ 破棄…漁民同士の対立

久米島東の問題…台湾船は一五隻 ↓ 多い

石垣島の振興策

漁協…役人的発想…漁協と市の水産課の協調

県の漁協の振興策…国の補助金獲得策

↓ 振興基金…施設整備(箱物行政)

無駄な箱物行政の例…猛暑施設

防衛予算の活用 八重山地域…国境の島

∴ 漁民 ↓ 国境で仕事

尖閣問題…一八九五年の台湾併合

↓ 戦後…領土問題はないことを前提に対話

石垣漁民が操業する場合…中小型漁船を使用

⇄ 中国船…大型船によるトロール漁

⇓ 船だまりや通信施設などが必要

### 石垣島の現状

飛行場の新設…観光客の増加 + 日本各地からの物資の流入

観光客への対応…多人数の食事(宴会等)

↓ 品揃えが困難…均等な食材等に移入

地産地消が成り立たない

日本人…北の魚を好む…南の淡白な魚はあまり好まれない

石垣の住民も同じ

### 石垣の観光業

漁協が中心となって島民に仕事を斡旋していく必要がある

漁業権の活用 ↓ 漁業権…漁協関係者の特権

ダイビングショップ…多くは島以外から進出したものが開設

島の若者は三%程度と推測

ダイビングの最中に魚介類の採集を披露

魚介類の採集…漁協関係者以外はできない

⇓ 島の若者の新しい仕事となる

地域おこしの一つの手段

居酒屋…チェーン店が進出

島民の店の優位性を強調して集客を考えるべき

⇓ 地の食材の提供・新鮮・おいしい等

釣り客…ダイビングに比べて少ない

釣り客の確保策…パイオ(浮漁礁)を設置

かなり釣れる確率が高い

漁協…ローテーションを企画(役人的発想)

仕事を分け合う

釣り客…特にリピーターは船長を指名する

船主のサービスが決め手…競争し合うべき

〔例〕比嘉氏…年に八〇組程度

船上で刺身を提供…つれなかつた場合も想定して材料

はあらかじめ準備

多く釣れた場合…宅配業者に連絡…港から直送

夕食等…食事のおいしい店を紹介

釣り客増加の一因…バラエティ番組で与那国島での釣りを

紹介 ↓ 釣り客増

…いかにして情報を発信していくかが課題

### 三、与那国島での実態調査…糸数議員

日本の最西端

人口…一、五五二人（男七九四人、女七五七人）、七九一世帯

面積…二八・九一km<sup>2</sup>

集落…祖納（中央北部）、久部良（西部）、比川（南部）

の三集落

主な産業…漁業、サトウキビ農業、畜産、観光

東崎…牛馬放牧、比川…エビ養殖場

カジキ…熊本県を中心に移出…七〇〇本ほど

一〇〇〇本程になると移出不能…輸送能力の不足

問題点…漁師がなかなか育たない

会場…与那国島、糸数健一氏の自宅兼店舗  
日 時…二〇一四年一月二十六日

島内調査…一三〇〇—一七〇〇〇

聞き取り調査…一八〇—二二〇〇〇

被聴取者…与那国町議会議員・与那国防衛協会副会長

糸数健一様

参加者 山田光矢 佐渡友哲 孔 義植

現地調査…一三〇〇—一七〇〇〇

…糸数氏の案内で島を一周…説明を受ける

島の実情

与那国島…方言名「どなん（渡難…『渡航が難しい』の意）」

行政区分…沖縄県八重山郡与那国町 北緯二四度二七分〇〇秒、

東経一二度五六分〇四秒

石垣島から一二七km、台湾宜蘭県蘇澳港まで一一一km

石垣島と台湾の間

西崎（北緯二四度二六分五八秒 東経一二度五六分〇一秒）

広域行政…八重山広域市町村圏事務組合

石垣市・竹富町・与那国町で構成

中心事業…介護事業 〓 石垣市に事業所設置

高齢者が石垣市に移住するケースも多い

糸数氏…与那国町…メリットは少ないように思われる

一括交付金…石垣市中心に使われている

与那国町にメリットはほとんどない

…二〇〇五年 〓 『与那国・自立へのビジョン』策定

↓ 合併拒否の流れ



人口 Iターン…二五%…若い人が多い

一代目⇨移住者 生まれた子供⇨地元民

Uターン…一五%…定住促進策が必要

不在家主…家を貸したがらない

問題点…住宅がつかれない

景観計画…世界遺産になれるような伝統的町並み回復が必要

定住促進型住宅建設…トナキ(?) 周辺…古民家風

観光促進イベント…マラソン大会やカジキ釣り大会

国境交流促進特命事務局担当

観光の目玉…ダイビング(海底遺跡、ハンマーヘッドシャーク他)やカジキ釣り

### 歴史

縄文時代…トウグル浜遺跡…南方系石器等が出土

↓ ポリネシア文明圏や東南アジアの影響を受け

た文化の存在を明示

グスク時代…一二—一四世紀⇨日本の鎌倉時代に相当

台地の上に集落形成

↓ 島仲村跡遺跡(サンアイ・イソバの生まれた村)

等

一五二二年以前…独立国⇨サンアイ・イソバ(女酋長)らの支

配地…テイングハナタ(遺跡)

一五二二年…琉球軍侵攻⇨琉球王朝の支配地(琉球王国領)

台湾との交易拠点

一六〇九年…薩摩藩が琉球侵攻

与那国島…琉球王朝領+薩摩藩+中国の三重支配

一六一一年…薩摩藩役人毛利内膳正元親来島

与那国島測量・検地帳作製

一六三七年…人頭税(一九〇三年まで…二六六年間)導入

過酷な税…久部良バリ(割)、トウングダ(人升田)

一八七二年…琉球藩設置(琉球王国廃止) ↓ 琉球藩領となる

一八七九年…琉球処分…沖縄県に帰属

一八九五年…台湾併合⇨台湾との交流活発化(中継拠点)

与那国経済発展

一九〇八年…島嶼町村制(一九〇七年…勅令第四六号⇨沖縄県

及島嶼町村制)⇨間切制廃止

間切(まぎり)…琉球王国時代の行政区分のひとつ

区割⇨市町村に相当…市町村合併等で現在の市町村とは異

なる

八重山村(石垣間切・大浜間切・宮良間切の三間切+与那

国島)成立

一九一四年…与那国村となる：八重山村の分村  
 一九四五年…琉球列島米国民政府（米軍軍政）下に置かれる

↓ 台湾との国境確立

台湾からの帰還者事業…島の人口増加（二、〇〇〇人）  
 一九四八年…与那国町となる

公式定期航路閉鎖 ⇄ 非公式交易（密貿易）取締強化

人口激減

一九五二年…米国統治：サンフランシスコ平和条約

一九七二年…日本返還

二〇〇四年…八重山地域の一市二町の合併⇨住民投票で否決

二〇〇五年…三月『自立へのビジョン』策定

六月三〇日⇨「国際交流特区構想」提出

第七次構造改革特区提案

二〇〇六年…与那国「国境交流特区二〇〇六」提出

二〇〇八年…九月⇨国境交流推進特命事務局設置

一〇月⇨国境交流推進協議会第一回会合

与那国町議会自衛隊誘致決議

自衛隊誘致…尾辻町長時代から存在（?）

二〇〇九年…八月⇨外間守吉町長再選…自衛隊誘致賛成派

二〇一二年…四月一日⇨沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事

業実施：離島住民カード公布

二〇一三年…七月八日⇨外国人住民の住基ネット・住基カード

運用開始

一二月二六日⇨どうなんファンド事業開始

近年…辺境に依る衰退からの脱却を念頭に台湾との直接

地域交流を目指している

国際交流

一九八二年…台湾（臺灣）・花蓮市と姉妹都市締結

二〇〇二年…姉妹都市結成二〇周年⇨親善交流

与那国・花蓮直行便の設置を検討

二〇〇六年…構造改革特区提案提出（第一〇次）

「国境交流特区」⇨国⇨許可せず

二〇〇七年

五月二九日⇨花蓮市に与那国町役場在花蓮事務所開設

一〇月四日⇨台北市への初の国際チャーター便運行

二〇〇八年…七月四日⇨花蓮への初の国際チャーター便運行

チャーター運行船計画…延期：荒海のため断念

…九月三日⇨国境交流推進特命事務局設置

二〇〇九年…与那国⇨花蓮間チャーター便運行（二月から三

月…三回）

一二月二二日⇨与那国花蓮縣交流發展協会設立

二〇一〇年…台湾から肥料輸入⇨与那国花蓮縣交流発展協会初の社会実験

二〇一一年…五月一日⇨与那国…花蓮間チャーター便運行

↓ 境界地域研究ネットワークJAPAN・与那国セミナー主催

二〇一二年…姉妹都市締結三〇周年…花蓮市

四月二三日⇨「花蓮・与那国間水上摩托車（水上バイク）

太平洋横断二〇一二」実行委員会（委員長・外間守吉町長）開催 ↓ 受け入れ態勢の確認

二九日⇨台湾・花蓮市の交流団七五名

水上バイク三五台・伴奏船一隻

九月二〇―二三日⇨姉妹都市締結三〇周年記念事業実施

（花蓮市）

蘇芳鎮や高雄市との記念行事…中国資本が裏から推進

中国政府の思惑が透けて見える  
⇨ 台湾を中国の一部として尖閣問題等への影響力の強化が見えてくる

### 特区構想

国…申請を受け付へただけ ⇨ 許可…下りていない

政経研究所共同研究資料

∴ 国の許認可の改革が必要  
定期航路設置  
日本⇨多くの条件のクリアが必要 ⇨ 台湾側…前向き

∴ 国の許認可の改革が必要

国際問題…自衛隊誘致

一九九六年…島から約六〇kmの海上に中国から発射された弾道

ミサイル一基着弾

日本…与那国島の沖合で軍事演習を計画

自衛隊や海上保安庁がパトロール

二〇〇八年…与那国町議会⇨自衛隊誘致を決議

自衛隊誘致…尾辻町長時代から存在（？）

二〇〇九年…八月⇨外間守吉町長再選…自衛隊誘致賛成派

二〇一〇年…四月三〇日⇨北澤防衛相

西南諸島への陸上自衛隊配備の調査費計上を表明

二〇一二年…防衛省⇨一〇億円の予算計上

基地設置に伴う調査検討費用

新編成する沿岸監視部隊の配置及び移動警戒

隊展開に必要な用地取得等のため

二〇一三年

三月…防衛省⇨南牧場（二〇ha）を年五〇〇万円での借

り上げを町に提示

町長⇨基地設置迷惑料一〇億円を要求

「町の経済効果が最優先」と強調

防衛省⇨最大一億五千万円を提示

町長⇨「市町村協力費」一〇億円を要求

四月⇨防衛省⇨君塚陸幕長⇨白紙見直し

石垣島等への移設を含むの検討を表明

五月⇨町長⇨予定地の賃貸料と特別交付税の増額を求め

ていく方針に転換

六月⇨町長⇨土地(二六ha)の年間賃貸料

一五〇〇万円で防衛省と妥結

町議会⇨賛成三、反対二の賛成多数で可決

↓ 仮契約締結

八月⇨外間守吉町長再選

与那国町議会の自衛隊誘致

国境防衛 + 過疎対策 + 地域経済活性化

糸数氏⇨防衛上の理由で自衛隊誘致の必要性を強調

日が暮れると中国の調査船が岸に接近

日中は沖合にいたるが夕方に接近してくる

∴ 日本の国境線防衛⇨自衛隊基地の設置が必要

一一〇人規模の沿岸監視部隊

自衛隊部隊の配置⇨島の経済にも好影響

人口増(一五〇人程度⇨過疎化対策) ↓ 経済規模の拡大

(経済活性化) ↓ 税収増他

地元民の福利厚生充実⇨

公認グラウンドの建設 ↓ 住民に開放

体育館の建設 ↓ 住民に開放

与那国島民⇨内向き⇨遠隔地ゆえの遠慮

島自体は自給自足が可能

宮古島⇨島が貧しい ↓ 島民⇨外に出て活躍する

島の経済の活性化の成功 ↓ 若者の進学率の高まり

↓ 高校進学率⇨一〇〇%

島に高等学校がない⇨全員進学のために島を出る

↓ 親子の二重生活

子供の大学進学⇨日本各地に移動

↓ 二重生活の解消⇨親が子供の進学先に移る

家族が島を離れることで島の人口が減少

八重山群島の合併⇨反対 ↓ 補助金等⇨石垣市だけを優先

〔例〕光ファイバーの設置

与那国町と花蓮市の交流

与那国町…国の支援・一回予算がいただだけ

半分…コンサルタントに丸投げ

↓ 与那国町の発展に結びついていない

町の利益は少ない

花蓮市…国の強い支援⇨交流を希望

国際交流を通じた国としての認知も目的の一つ

#### 四・与那国島での聞き取り調査…与那国町役場

会場…与那国町役場

日時…二〇一四年一月二七日一三…三〇—一四…三〇

担当者…与那国町総務財政課交流推進班（国境交流推進特命事

務局）長濱利典班長

参加者…山田光矢、佐渡友哲、孔 義植

与那国町行政計画

二〇〇五年三月…『与那国・自立へのビジョン』策定

二〇一一年二月…『第四次与那国町総合計画（基本構想・基本

計画）「健やかな自然・人・生活を育む町』

政経研究所共同研究資料

（平成二三年～三二年）策定

二〇二二年…『どうなんファンド基本構想』策定

コミュニティ・ファンド

どうなんファンド町民活動支援助成金交付要綱

『どうなんファンド町民活動支援助成金制度』開始

↓ 町の活性化に向けた町民、企業、団体のまちづく

り活動の支援

ふるさと納税を原資とする与那国町「ばんだダウン島基

金」を活用

与那国町の現状

一・人口減少…約一、五〇〇名 ↓ 一〇〇名増を計画

『どうなんファンド町民活動支援助成制度』の活用

地域の活性化・美化などのまちづくり活動を行う団体

への助成を行う制度

【例】古民家再生

人口減などによる古民家解体…資材はストック

↓ ファンドを利用した古民家再生

二・自然環境の保護

「田原川を・知り・守り・伝えるプロジェクト 第①会」

（二〇一四年二月一〇日…資生堂が協力）

田原川を中心とした子供たちの自然観察の継続  
三、若者と教育

「二五の春」…高等学校がない ↓ 若者…島を出る  
所得…沖縄県内市町村で四番目  
↓ 進学率は高いが戻ってこない

国際交流

台湾との交流…一九八二年から

二〇一二年九月二日「姉妹都市締結三〇周年記念フォーラム」

貿易はほとんどない ↓ 人的交流が中心

日本と台湾…国交がない

非関税製品（砂・プラスチック等）の輸入

↓ 環境規制等（数量制限）で動きがない

一九四五―五〇年代…トライアル貿易（「例」奥野修司著『ナ

ツコ 沖縄密貿易の女王』二〇〇七）

日本政府から見れば密貿易…尖閣諸島からの木材を輸出

アメリカの規制 ↓ 経済力の弱化 ↓ 島の人口減

花蓮市と蘇澳鎮…交流・交易を含めた活発化の要望がある

与那国町…台湾の修学旅行を発信したい

台湾からのチャーター便

石垣市…一八時以降に限定：国内便で手一杯  
与那国町…いつでもOK

台湾からの旅行者 台湾の老人

五、〇〇〇円程度で往復できる

台湾との交流…八重山圏でおこなう

韓国との交流

一四七七年…李朝実録Ⅱ与那国が書かれている

濟州島との交流

一九八七（昭和六二）年Ⅱ濟州島にて民俗芸能を披露

与那国の食文化の良さを発信すれば可能性はある

↓ 米食文化…共通

国際交流…C I Q（Customs 税関、Immigration 入管、Quar-

antine 検疫）が必要

入手資料

『第四次与那国町総合計画』

「人口及び世帯数調査」「人口ピラミッド」「年齢別人口集計表」

「田原川を〇知る〇守り〇伝えるプロジェクト 第①会」（パ

ンフレット）

## 五、臺灣(台湾) 宜蘭縣蘇澳鎮蘇澳區漁會での 聞き取り調査

会場：臺灣(台湾)・宜蘭縣蘇澳鎮「蘇澳區漁會」總

幹事室

調査対象者：宜蘭縣延繩漁業協會總幹事・林 新川氏

参加者：山田光矢・現地通訳一名

### 事前調査資料

日本と台湾(臺灣と日本)と沖縄…年表

一六八四年五月二七日…康熙帝(清国)・臺灣(台湾)領有の詔勅

一八七二(明治五)年…琉球処分

琉球国廃止 ↓ 琉球藩設置

一八七四(明治七)年五月六日…日本・台湾(臺灣)出兵

一九七九(明治一二)年…沖縄県設置

一八九四(明治二七)年八月一日…日清戦争

一八九五年四月一七日…下関条約

日本…台湾(臺灣)領有…台湾(臺灣)

総督府設置

五月二三日…台湾(臺灣) 民主国独立宣言

政経研究所共同研究資料

一月…「全台(臺)平定」宣言 ↓ 武装抗日蜂起…頻発

一九三一年九月…台湾(臺灣) 人の皇民化開始

一九四五年八月十五日…日本降伏 II 台湾(臺灣) 領有権放棄

…一〇月二十五日…中華民国統治開始

一九四九年二月八日…中華民国政府・台北(臺北) 移転

一九六九年五月…国連アジア極東経済委員会(ECAFE)・東

シナ海に石油埋蔵の可能性を指摘

一九七一年四月一三日…魚釣島(尖閣諸島) 運動

六月…台湾(臺灣) 外交部・尖閣諸島の領有権を主張

一〇月二十五日…台湾(臺灣)・国連脱退を宣言

一〇月三十一日…中華人民共和国・国連代表権獲得

二月…中華人民共和国・尖閣諸島の領有権を主張

一九七二年二月二一日…ニクソン大統領・中華人民共和国訪問

五月九日…台湾(臺灣)・尖閣列島の日本返還に抗議声明

を公表

五月十五日…アメリカ・沖縄の施政権返還…尖閣列島も

含む

九月二五日…田中角栄首相訪中

九月二九日…日中共同声明締結

日華断交…「七二年体制」

二月一日…東京で交流協会発足

二月二日…台北（臺北）で亜東関係協会

一九九二年…中華人民共和国「領海及び接続水域法」制定

一九九六年六月一日…「排他的経済水域及び大陸棚に関する

法律」制定

日台（臺日）漁業協定開始 ↓ 一六回の協議 ↓

合意に至らず ↓ 二〇〇九年中断

二〇〇二年四月一日…日本・政府が尖閣諸島を賃借

二〇〇五年六月九日…約六〇隻の台湾（臺灣）漁船が尖閣諸島

近海に結集

二〇〇八年六月一日…尖閣諸島近海で海上保安庁巡視船と台

湾（臺灣）漁船との衝突事故発生

二〇一二年八月五日…馬英九総統・「東シナ海平和イニシアチ

プ」提起

九月一日…日本・野田内閣尖閣諸島を国有化

一〇月五日…玄葉外務大臣「台湾（臺灣）へのみな

さんへ」と題したメッセージ発信

二〇一三年一月…クリントン米國務長官・尖閣諸島が日米安全

保障条約の対象と表明

四月一日…日台（臺日）民間漁業取決め」締結

二〇一四年一月二四日…第三回日台（臺日）漁業委員会・一部

水域での操業ルールに合意

二〇一五年三月七日…第四回日台（臺日）漁業委員会・適用水

域における漁船操業ルールに合意

林新川氏（宜蘭懸延縄漁業協會總幹事）へのインタビュー

臺灣と日本（日本と台湾）の関係…良い

林氏…両親は日本統治下で日本語教育を受けた：日本と日本

文化には親近感がある

臺灣（台湾）の漁民と沖縄の漁民の関係は良い

長い間この海域でともに魚を取ってきた

日本占領時代は、お互いに日本人としても漁業をしてきた

臺灣（台湾）独立後も、日本領であったこともあり、長い間

に築いてきた交流関係が存在する

これまでもお互いに助け合い、平和に漁業をしてきた。

日本の排他的経済水域の設定（一九九六年）

臺灣（台湾）漁船を締め出すことになった

しかし、その後も問題なく操業を続けてきた

二〇〇五年以前…特に問題はなかった

二〇〇五年以降…日本と中華人民共和国の尖閣における石油資

源をめぐる対立が臺灣（台湾）漁民にも影響を与える

ようになつた

ただし、その後も臺灣（台湾）と沖縄漁民は友好に漁業を継



続してきた

林氏の経験

一、尖閣諸島に上陸したことがある

淡水があるため、水の補給のために上陸した

荒れやすい海域のため、台風が来た時には嵐を避けるために上陸した

二、日本の漁民との接触（二〇〇八年だったと記憶している）

日本人が三人乗っている船で大きな魚を船にあげるのに格闘していたので、助けたことがある。

日本漁船が故障のため漂流しているのに出くわし、三日間曳航して港に届けたことがある

↓ 臺灣（台湾）と日本の漁民はお互いに助け合ってきたり、今後もそうあるべき

三、臺灣（台湾）漁船と日本の取り締まり当局との接触

二〇〇五年以前は平和的な操業を相互に行ってきた

その背景には釣魚島（尖閣諸島）周辺に大きな油田があることがわかったため

日本の排他的経済水域の設定が対立の一因

特に中華人民共和国の海洋進出が日本と中華人民共和国の領土紛争を激化させた

政経研究所共同研究資料

臺灣（台湾）漁民が大きな迷惑をこうむっている

結果的に釣魚台（尖閣諸島）周辺海域の漁場からの台湾漁船の締め出しにつながった

一二カイリから二〇〇カイリに対象海域が急拡大したことが大きな要因

臺灣（台湾）漁船にとつては死活問題となった

四、釣魚台（尖閣諸島）周辺の臺灣（台湾）漁船と日本の警備当局との接触

締め出しの結果、領海際での操業をせざるを得なくなった  
海流等の影響で船が流され越境が生じることがある

安全な操業環境の確立の必要性をずっと思ってきた

五、二〇一三年の臺（台）日漁業取決め

マグロを中心として行ってきた領海際での操業から発生する問題の解決のため

釣魚台（尖閣諸島）周辺は黒潮に乗ってマグロが北上してくる

その時期は四月半ばから七月半ばくらいまでの約三か月である

シーズンが限定されることから臺灣（台湾）と日本の漁船が集中する

日本は臺灣（台湾）漁船の操業を、資源枯渇の一因とし

て非難している

臺灣（台湾）漁船のはえ縄業は食いついたマグロだけを取っているので、むしろ資源にやさしい操業といえる

漁場には臺灣（台湾）船のほうが多い

臺灣（台湾）漁船が約一〇〇艘程度なのに対して、日本漁船は一〇艘程度である

#### 六、二〇一五年の臺（台）日漁業取決め

臺灣（台湾）と日本の相互の二〇〇カイリを合わせた協議と考えている

安全操業のための環境が整備された

今後は毎年協議を行い、特に春先のマグロ業については合意を得る必要がある

日本政府や沖繩の担当者との間にホットラインを引くことも必要である

#### 調査の感想

アポなしの調査であったが、協会の女性職員が明朗な態度で接してくれ、理事長が不在のため林さんと呼び出しインタビュウが行える環境を整えてくれた。彼女は数回石垣市を訪問しており、姉妹都市関係が友好を築いていることが理解できた。地域間交流はうまくいっていることが感じ取ることができた。

日台（臺日）間の漁業取決めは両国の今後の友好関係の拡大に大きく役に立つであろうことは感じ取ることができた。